

2017年(平成29年)4月6日(木)



毎日新聞

大岡信さん死去

詩人「折々のうた」

86歳



現代日本を代表する詩人で、古今東西の詩を論じた著作でも親しまれた大

岡信(おおおか・まこと)さんが5日、呼吸不全のため死去した。86歳。葬儀は近親者で営む。後日お別れの会を開く予定。喪主は妻で劇作家の深瀬サキ(ふかせ・さき、本名・大岡かね子)とおおおか・かねこ)

さん。(社会面に関連記事) 静岡県三島町(現三島市)に、歌人の父・博の長男として生まれた。旧制沼津中(現沼津東高)在学中から短歌や詩を書き始め、東大在学中の1952年、雑誌「赤門文学」に発表した評

論が注目を集めた。

大学卒業後、読売新聞外報部記者の傍ら旺盛な創作を進め、川崎洋、茨木のり子らの詩誌「権」に参加。

63年に新聞社を退社後は明治大、東京芸術大などで教えながら、幅広い文筆活動を展開。「記憶と現在」「透視図法―夏のための」「春少女に」など清新な実験精神に富む詩集、「紀貫之」「うたげと孤心」など日本の古典に根差した斬新な評論を次々と発表し、詩壇をリードした。

翻訳や戯曲、映画脚本のほか美術、音楽評論も手掛けた。朝日新聞連載の「折々のうた」で80年に菊池寛賞を受賞。日本現代詩人会会長、日本ペンクラブ会長を歴任し、95年から日本芸術院会員。2003年、文化勲章を受章した。長男玲さんは作家。09年に脳出血で倒れた後は一線を退き、療養に努めていた。